

# 令和4年度 附属高等学校 学校経営計画

## 1 附属学校の役割

- 学部・大学院における研究を附属学校で実際の指導に取り入れ、その結果を学部・大学院の教育研究に反映していく実験・実証校としての役割
- 学部・大学院の教育研究に基づいて、教育実習生を指導する教育実習校としての役割
- 一般公立学校と同様に普通教育を行う公教育の役割
- 地域の学校と連携して教育、研究を推し進める役割

## 2 東京学芸大学附属学校教育目標

東京学芸大学附属学校は、在学する幼児・児童・生徒に普通教育を施すとともに、大学と連携して実証的研究や実践的研究に取り組むことにより、

- 協働して課題を解決する力
- 多様性を尊重する力
- 自己を振り返り、自己を表現する力
- 新しい社会を創造する力

の四つの力を持った次世代の子どもを育成する教育を推進する。

## 3 東京学芸大学附属高等学校教育目標

- 清純な気品の高い人間を育てる
- 大樹のように大きく伸びる自主的な人間を育てる
- 世界性の豊かな人間を育てる

## 4 育てたい生徒像（グラデュエーション・ポリシー）

### 多様な分野でイノベーションを引き起こし、国際社会に貢献する人間

現代は先の読みにくい時代である。AIをはじめとした技術の進歩は加速度的であり、現在の職業の多くが近い将来無くなると言われている。その Society5.0 の時代にあって、社会に貢献する真のリーダーのキーコンピテンシーとは何かを考えた。

- 改革者としての社会貢献

各自が選んだそれぞれの分野で創意工夫し改革を進めることにより社会に貢献できる**真のリーダー**を育成する。

- **生涯学習者**としての学習に向かう姿勢

生涯にわたり学ぶ「姿勢」を持ち、自ら学習する「方法」を身につけるとともに、学習によって獲得した力を他者のために活用する意欲に溢れ、挫折をも糧として成長していくタフな人間を育成する。

- 適切な**情報収集・分析能力と課題発見能力**

情報処理に関する基礎的・基本的な知識技能を持つとともに、情報を扱うことに対する適切な倫理観を育成する。さらに、錯綜した複雑な情報の中から重要なものを選び出し自らの目的に沿った課題を発見する力を育成する。

- 柔軟に**ダイバーシティ**を受け入れ活用する力

アジアをはじめとした海外の研究機関・大学・高校と連携して、共同研究及び交流を行うことで、グローバル、化に対応した、異なった文化・価値観を持つ人々と協働しその多様性を生かしていく柔軟な知性を育成する。そのための英語力をはじめとした豊かなコミュニケーション能力を育てる。

## 5 中期経営目標（以下、令和5年度を達成年度とする）

- 新型コロナウイルス感染症や地震等の災害に対する**危機管理体制**を充実させる。
- 探究活動の工夫など本校独自の教育研究や東京学芸大学のプロジェクト研究と連携した教育研究、さらには東京学芸大学附属中学校や東京学芸大学との連携強化により、**日本における先導的・実験的な調査研究の拠点校**となる。
- 「**令和の日本型学校教育**」の目指す方向に沿った、現代的で充実した教育課程を編成し、充実した教科指導を実現することにより、本物教育を深化させ、**真のリーダー育成**を実現する。
- 本校の教育内容とその成果をHP等で**全国に積極的に発信し、全国の高等学校のモデル校**となる。
- 匿名通報システムの活用やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、精神科校医等との連

携強化により、「いじめ」をはじめとした問題行動を根絶する。

- 塾等に頼らず、現役で生徒の志望校合格を実現する**進路指導体制**を構築する。
- 校長の**ガバナンスを強化**し、迅速かつ適切な判断と実行を可能とする学校組織を構築する。会議の精選と**オンライン会議方式導入**により、**働き方改革**の先鞭をつける。

## 6 年度経営目標

育てたい生徒像で述べた人間を育成するために、中期経営目標の達成を目指す。今年度、特に力を注ぐのは、①昨年に続き**新型コロナウイルス感染症への対応**をはじめ、入学選抜、生徒指導、進路指導での**危機対応**、②中教審答申の「**令和の日本型学校教育**」の構築を意識した**カリキュラム編成**による本校の本物教育の深化、③附属中学校、大学と連携した教科指導や生活指導等の教育研究の活性化、④生徒の**進路希望の実現のための支援強化**、④本校の教育を全国の高校や教育委員会等へ**広く頻繁に発信**、することである。

次の記述で◎は特に重点的に行うことである。( )は主担当の分掌・委員会等

### (1) 学校運営の目標

「新型コロナウイルス感染症対応」、「広報活動の活性化」、「働き方改革の視点での業務改善」のために以下の取り組みを行う。

- ICTやネット環境を十二分に活用した**オンライン授業**の経験を生かして、新たな感染症や災害に対応した対面とオンラインでのハイブリッドな学習環境を構築する。(教務部+教育工学)
- 行事や部活動の制限下での生徒の心身の健康状況に配慮し、生命・健康を重視した上での可能な活動を工夫する。(企画会議+生徒指導部)
- ◎ **新しいホームページを生かし、各種情報を広く迅速に伝える**。校長ブログは月に1回以上更新し、本校の進んでいく方向を明確に示す。各種行事や部活動の状況、進学実績等は、即時掲載し、平均して週に2回以上更新する。**生徒の声、保護者の声**、学校外からの反応等の掲載も考える。(広報)
- ◎ **新型コロナウイルス感染症の状況が許せば、在校生の保護者向け授業公開**を1週間、その他**中学生とその保護者等への授業公開**を2日間行う。本校での学校説明会、塾等に赴いての学校説明会など年に20回以上行う。対面での実施が不可能なら、オンライン配信等を工夫する。(庶務+広報)
- 緊急事態宣言下で対面での会議を自粛した経験を活かす。企画会議や主任会を活用して調整を十分に行うとともに、会議目的の明確化とICTの活用で進行を効率的に行う。その結果として、**対面での職員会議をはじめ諸会議の回数減少と時間短縮**を図る。一方、**オンラインを活用した情報交換(オンデマンド職員会議)**は、**毎週行う**。(企画会議)

### (2) 教育活動の目標

「本物教育の深化と進路支援の充実」と「生活指導と安全教育」のために以下の取り組みを行う。

- ◎ 従来の**本物教育を強化しキーコンピテンシーを意識した探究活動**等により「課題発見能力」「思考力」「判断力」「表現力」を育成する。特に東京学芸大学からの支援を活用し、専門性の高い探究活動を目指す。(研究部)
- 新学習指導要領と**令和の日本型学校教育**の目指す方向に沿った、現代的で充実した教科指導を実現することにより**本物教育を深化**させたカリキュラムを開発する。(カリキュラム委員会+教務部+研究部)
- 外部模試を実力試験の中心に据え、徹底的に活用する。他校比較、他学年との比較、同一学年の継時変化等を分析し、有効な教科指導と進路指導を探る。1学年では入学時の学力を客観的に把握し、個に応じた学習指導を行う。2学年では、1学年からの経時変化を明確にして中弛みを防ぐ。3学年では大学入学共通テストに対応した指導を充実させる。入学から卒業まで、**授業を大事にする進路指導**を徹底する。(進路指導部+学年)
- 教員の進路指導研修を各学期で1回以上行い、**生徒への進路支援力**を強化する。その結果、外部模試の返却時の生徒への指導を充実させる。(進路指導部+学年)
- ◎ 年2回の**医学部ガイダンス**に続き、同窓会と連携し他の職業に関する**キャリア教育、外国の大学進学のためのガイダンス**等も行う。(進路指導部)
- ◎ **大学個別試験対応の講習の開講数を増加**するとともに、全教科で生徒ごとの**過去問添削指導**を充実させる。(進路指導部+教務部+教科)
- ◎ 生徒の自学自習を支援するため、**自習室を設け、支援員を置く**。(進路指導部+3学年)
- ◎ **いじめの匿名通報システム**、年2回の記名でのアンケート、スクールカウンセラーによるアンケートとカウンセリング、毎週行う**いじめ防止対策委員会**、管理職とスクールカウンセラー、養護教員とのミーティング等により、いじめを未然に防ぎ、重大化を阻止する。(いじめ防止対策委員会+生徒指導部+学年)
- 附属中学校等および**専門機関等との連携**を強化し、メンタルのトラブルや学校不適応に対応する。(支援委員会+生徒指導部+学年+保健部+スクールカウンセラー)
- ◎ 附属3中学との間で、生徒指導、生徒支援、教育課程等についての担当主任会を、学期に1回以上開催

する。(管理職)

- 警察官や情報産業関係者による講演と教科情報の授業を通じて、**生徒の情報対応力**を強化する。(生徒指導部+学年+情報科)
- 災害等を想定した**避難訓練**を年3回以上行う。(総務部)
- **不審者対応**を想定した教員対象の実地訓練を地域の警察の協力で行う。(総務部)
- 図書館においては、生徒の意見を聞き、広報活動を強化することで貸し出し数を1.2倍にする。(図書部)

### (3) 研究活動の目標

- ◎ **3つの大学の教育開発プロジェクト**と連携し、大学の教育研究を支援するとともに、本校の教育研究を活性化する。(管理職+研究部)
- **理数融合**の授業と**工学的発想**での理科授業を研究する。(理科+数学科+研究部)
- **海外の学校等との交流**により、生徒に、コミュニケーション能力とダイバーシティを活用する能力とを育てる。当面は**オンライン**で行う。(理科+帰国生留学生委員会+研究部)
- 本校での発表会参加者等に事後調査をして、本校の研究成果の活用状況を分析する。(研究部)
- 東京学芸大学等との連携で、生徒の探究活動への**メンター**を確保し、研究を充実させる。(管理職+研究部)
- ◎ **ICTを活用した教科指導**の工夫を行い、広く全国に広める。(研究部+全教科+広報)
- ◎ 地元東京都教育委員会との連携を深め、学校組織マネジメント、探究活動、1 to 1、教科情報等において、高校教員対象の研修講師派遣や、本校での研修会を開催する。(管理職+研究部)

### (4) 学生の教育・支援活動の目標

「大学、附属中学との連携」のために、以下の取り組みを行う。

- ◎ 東京学芸大学および他大学の教育実習生約200名に充実した教育実習を施す。(教務部+各教科)
- 校長をはじめ本校教員が東京学芸大学に赴き講義を行う。(全教員)

### (5) 社会貢献活動の目標

- 地域の防災活動に生徒の代表等が参加して、交流するとともに地域を愛する心を育てる。(生徒指導部)
- 特別支援学校等との交流によりインクルーシブ教育を実践する。(生徒指導部)
- ◎ 生徒有志が東日本大震災の被災地域を訪ね、自分たちでできるボランティア活動について考える。(研究部+教科)